

令和元年6月10日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12309

研究課題名(和文) 看護学士課程における「コミュニティに焦点を当てた看護」教授 学習モデルの開発

研究課題名(英文) Development of a 'community focused nursing' teaching-learning model within an undergraduate nursing course

研究代表者

牛尾 裕子 (USHIO, YUKO)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00275322

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：地域看護学は、「地域」に焦点を当てた看護実践の知識・技術を体系化する看護学の一領域であり、日本の看護制度では保健師の実践分野である。本研究では保健師が地域を受け持ち、地域の健康の向上を目指して展開する地区活動を「コミュニティに焦点を当てた看護」とし、これを教授する学内演習教育プログラムを開発した。さらにこの教育プログラムの基盤とする考え方をもとに地域/公衆衛生看護演習プログラムデザインのためのコンセプトモデル案を作成した。本モデルは、地域看護実践のための思考力を養う教授学習のあり方を示したものであり、地域看護実践に必要な思考力を構成する重要概念を明示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少子高齢化の進展、貧困・格差などの社会の変化に伴い、持続可能な社会保障のための制度改革が進められている。これを受けて看護は地域での役割の拡大がより一層進むと考えられる。本研究の成果は、地域包括ケアを担う看護人材養成のための大学における看護学教育の質の保障に資するものである。看護系大学のカリキュラムの多様化が広がるなかで、どのようなカリキュラムにも対応する地域ケア人材養成教育の考え方と方法を明示した。

研究成果の概要(英文)：Community/public health nursing is a field of nursing discipline that develops and refines the knowledge and skills required for public health nurses within the Japanese nursing certifying system. We developed teaching materials for use in classroom seminars, enabling undergraduate nursing students to develop community focused nursing skills. As a result of this study, we propose a concept model for the design of a community/public health nursing practice seminar program in the classroom. The model proposes improved methods of promoting thinking skills within community/public health nursing practice, and big ideas that are composed of the skills.

研究分野：地域看護学・公衆衛生看護学の体系化、公衆衛生看護の人材育成、健康危機管理における看護の役割機能

キーワード：公衆衛生看護 地域看護 看護大学教育 パフォーマンス評価

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)地域看護学は、「地域」に焦点を当てた看護実践の知識・技術を体系化する看護学の一領域であり、日本の看護制度では保健師の実践分野である。日本の保健師は歴史的に地域(コミュニティ)を受け持ち、受け持ち地域を看護の対象として捉え、地域の健康の向上を目指して活動を展開してきた。本研究ではこのような受け持ち地域を対象とした活動を「コミュニティに焦点をあてた看護」とする。

(2)専門職として行う看護実践は、科学的知識と技術に裏付けされながら、対象に応じて個別的方法を創造し展開される。対象を把握・診断し、対象の持つ課題に応じて介入を計画し、実践・評価する、これが看護過程である。「コミュニティに焦点をあてた看護」とは、看護の対象としてコミュニティを捉え、コミュニティに介入し、コミュニティの健康の向上を目指す看護実践過程である。日本の保健師、中でも保健所や保健センターなど地方自治体に所属する保健師はこれを「地区活動」と称してきた。以下本研究において「コミュニティに焦点をあてた看護」と「地区活動」は同等の意味で用いる。

(3)研究者はこれまで、保健師が地域を対象として活動を展開する際の起点となる「地域診断」について、保健師基礎教育における教育法の研究に取り組んできた。教材および学生へのフィードバックと教授活動に役立てる学び評価ツールを、パフォーマンス評価の考え方を基に開発した。この成果をもとに、本研究を構想した。

(4)看護人材養成のための大学教育は、2012年カリキュラム改正以前は、保健師と看護師の養成を合わせて教育してきたが、カリキュラム改正以降、保健師教育を、各大学がその教育理念等に基づき、全員必修か選択制、または大学卒業後の養成などを選択できることになった。これにより地域看護学・公衆衛生看護学の教育において、大学間の格差が問題となっている。本研究では、各大学の考え方やカリキュラムに応じ、看護師、保健師の両教育課程の学生に適用できる教育プログラムの開発を目指した。保健師教育課程に限定せず、大学における地域看護学・公衆衛生看護学の教育、ひいては今後一層需要が高まる地域ケアを担う看護職の養成に資するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護学士課程(大学教育)において「コミュニティに焦点をあてた看護 community focused nursing」教授-学習モデルを開発することである。

教室内の演習で用いる地区活動学習教材を作成し、これを教育に適用・評価する。そしてこの成果をもとに「コミュニティに焦点をあてた看護」教授-学習モデルの開発を目指す。研究終了時点の成果は、パフォーマンス課題とルーブリック、視聴覚媒体を組み合わせた教材とその教授用ガイドを作成すること、地区活動学習メタルルーブリックを作成し、これらをテキスト化することである。

3. 研究の方法

(1)「コミュニティに焦点を当てた看護 community focused nursing」教授-学習モデルを具体化する教材の開発：「地区活動展開過程アセスメント～計画編」「地区活動展開過程計画・実施・評価編」「地区活動の手段としての家庭訪問」の3研究班それぞれで教材を開発し各大学の教育において適用し評価することで、精練化をすすめた。

(2)モデルのコアとなるパフォーマンス評価とメタルルーブリックの検討:メタルルーブリックとは一段階抽象度の高いルーブリックで、米国 AAC&U の VALUE ルーブリックが一例にあげられる¹⁾。個々の大学・学科等は VALUE ルーブリックをもとに各自の文脈に合わせてローカライズして使用するものである。本研究においても多様な大学の多様なカリキュラムに対応して教材を使用することを意図し、メタルルーブリックを開発することとした。方法としては、教材作成班と連携しながら、ワークショップ等を企画実施した。ワークショップ参加者を対象にモデルに対する意見調査を実施した。

(3)(1)～(2)の成果を基に、大学で公衆衛生看護学・地域看護学を学ぶ学生を対象とし、講義で学んだ知識を実践に向けて応用する力を養う学内演習用のワークブックを作成し、出版した。あわせて、地区活動(コミュニティに焦点を当てた看護)教授学習方略の要素を明らかにし、「看護基礎教育において公衆衛生看護の演習プログラムをデザインするためのコンセプトモデル案」を作成した。

4. 研究成果

(1)看護学士課程における地域看護学教育のための学内演習用ワークブック

ワークブックのねらい

ワークブックは、大学で公衆衛生看護学・地域看護学を学ぶ学生(保健師教育課程に限らない)を対象とした。講義で学んだ知識・技術を実践への応用を学習することをねらいとした学内演習で用いる教材を掲載している。演習では、保健師の実践が行われる具体的な状況や事例とその状況の中で保健師の立場で取り組む課題(パフォーマンス課題)を提示するスタイルで、

学内でのグループ学習でも、自宅での個人学習にも活用できるようになっている。また保健師が実際に会うような個別事例を提示し、事例と真剣に向き合うことをとおして、講義で学んだ知識の意味を深く理解することをねらっている。

ワークブックの構成
ワークブックは、学生を対象とした第1章から第3章と、教員を対象とした第4章から構成した。研究成果である教材と、教授学習支援のためのツールとしての各教材に対応したパフォーマンス評価のためのルーブリック(案)を組み込んでいる。

ワークブックの基盤となる考え方

ウィギンズ²⁾は、教師の役割は、本来限定的な学習を、学生が他の設定や論点・問題に転移させるのを助けることだと述べた。本書では、学内で行う演習を、地域/公衆衛生看護において中核となる重要概念を、転移可能な概念としての理解、すなわち、経験したことのない現実の状況に直面した時にも応用し課題に対応できるようなレベルの、深い理解を助ける教授学習過程とした。また、学生が演習課題に取り組む学習を支援するために、パフォーマンス評価の考え方を採用した。そのための学習資源として、パフォーマンス評価のためのルーブリックを、第2章及び第3章に組み込んだ。ルーブリックの表側に示した評価の観点は、各演習で示した学習目標と対応させた。我が国の看護系大学のカリキュラムは、大学設立の背景や教育理念に基づいており、多様多彩である。そして各大学の多様なカリキュラムを反映して、そのカリキュラムに組み込まれる地域/公衆衛生看護の教育プログラムも必然的に多様となる。そこで、本書の演習は、どのような大学のカリキュラムにおいてどのような地域/公衆衛生看護の教育プログラムであっても、適用可能なものを提案し、適用のバリエーションを紹介している。

(2) 地域/公衆衛生看護演習プログラムデザインのためのモデルの検討

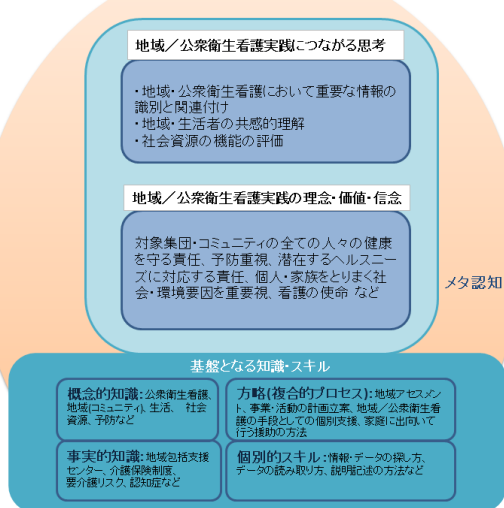
大学教員対象の意見調査

ワークブックの基盤とする考え方を基に、看護学士課程教育において地域/公衆衛生看護演習プログラムをデザインするための枠組みとなるモデル案1(図1)を作成した。そして、保健師の地区活動を学習する学内演習についての大学教員対象のワークショップ(WS)を開催し、WS終了後、モデルの妥当性有用性についての無記名自記式アンケート調査を行った。WSでは、開発した演習プログラムの紹介、演習の解答例を用いたパフォーマンス評価のグループワークを行い、最後に考案したモデルを提示・説明した。WSは、東京大阪で計2回開催し、参加者は計19名、アンケート回収は17名(回収率89.5%)であった。回答者は、地域看護学を専任する助教・講師・准教授・教授で、保健師教育課程は選択制が8割であった。モデル全体像の内容的妥当性については、「どちら

ワークブックの構成

第1章 ワークブック作成の意図と使い方
1 ワークブックのねらい 2 ワークブックの特徴 3 地域/公衆衛生看護とは 4 地域/公衆衛生看護の方法 5 「地区活動」における個別事例 6 大学における地域看護学・公衆衛生看護学教育を取り巻く状況
第2章 地区活動(地域/公衆衛生看護)の展開方法
I 演習A 地域診断演習 II 演習B 活動計画の立案 III モデル解答例 IV 地区資料 V 事例解説編
第3章 地区活動(地域/公衆衛生看護)の手段としての家庭訪問
1 学習目標 2 演習課題(事例とワークシート含む) 3 学習目標に到達するための課題レポート作成ガイド 4 事例演習における自己評価用学生の到達目標 5 演習課題の意図と解説
第4章 ワークブックの基盤となる考え方
1 大学における地域/公衆衛生看護の教育のあり方 2 学習支援のための評価の考え方 パフォーマンス評価とルーブリック 3 本書におけるパフォーマンス評価のためのルーブリックの提案 4 多様なカリキュラムに対応した演習プログラムの活用

保健師であるかのように思考する



地域/公衆衛生看護教育プログラムデザインのためのコンセプトモデル(案) 学内演習

図1 モデル案1

かといえ妥当」を含め計 16 名 (94.1%) が妥当と回答した。有用性も同じく、16 名が有用であると回答した。あわせて、モデルに示した重要概念とその下位項目への意見を得た。

地域/公衆衛生看護教育プログラムデザインのためのコンセプトモデル(案)

の調査結果をもとに、研究者会議でモデルの検討を行い、地域/公衆衛生看護教育プログラムデザインのためのコンセプトモデル案 2 (図 2) を作成した。本モデルは、教員が公衆衛生看護の演習プログラムをデザインするための枠組みを表している。演習では、現実の実践に近い状況設定の中で課題に取り組みさせることで、「保健師であるかのように思考する力」の習得を目指す。保健師であるかのような思考の核は、「実践の根拠となる思考(高次の認知能力)」と「公衆衛生看護の価値・使命(専門職的態度)」から構成している。前段の講義で学習した知識・技術は、実践に近い

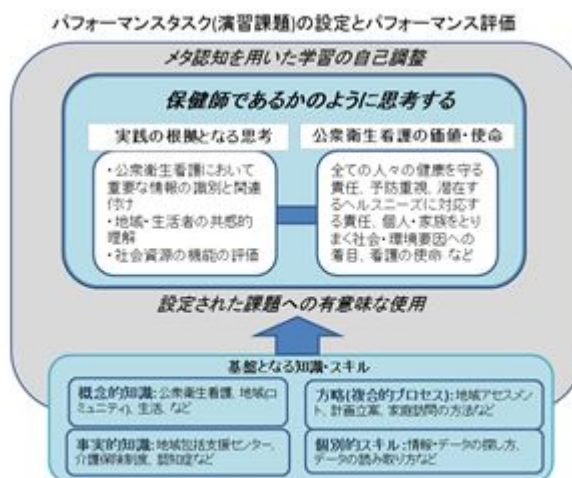


図 2 モデル案 2

状況での課題への取り組みのために使いこなすものと位置付けている。さらに学習過程でパフォーマンス評価ツールを用いることで、学生自身が学習を自己調整して取り組めるようにプログラムをデザインすることを表した。

引用文献

- 1) 松下佳代: パフォーマンス評価による学習の質の評価 - 学習評価の構図の分析にもとづいて - . 京都大学高等教育研究, 第 18 号, 75-114, 2012.
- 2) G. Wiggins/J. McTighe (西岡加名恵訳): 理解をもたらすカリキュラム設計 - 「逆引き設計」の理論と方法 - , 日本標準, 47, 2012.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

- 宮芝智子・牛尾裕子: 看護基礎教育における地域診断演習の課題提出物を評価する基準に影響する要素, 神奈川県立保健福祉大学誌, 16(1), 47-54, 2019.
- 牛尾裕子・宮芝智子: 地域看護学教員が参加したルーブリックモデレーションワークショップのプロセス評価, 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 25, 31-40, 2018.
- 田村須賀子・山崎洋子・時田礼子・安田貴恵子: 学士課程の講義・演習における「保健師の家庭訪問」の教育内容・方法の特徴, 保健師ジャーナル 74(1), 48-54, 2018.
- 牛尾裕子・松下光子・塩見美抄・宮芝智子・飯野理恵・嶋澤順子・小巻京子・竹村和子: 地域診断の実習・演習における教員の評価視点 - ルーブリック開発のためのパフォーマンス評価の規準となる内容の探索 -, 日本地域看護学会誌, 19(3), 6-14, 2016.

[学会発表](計 2 件)

- 牛尾裕子: 地域/公衆衛生看護演習プログラムデザインのためのモデルの検討 - 大学教員の意見調査をもとに -, 日本地域看護学会第 22 回学術集会, 2019.
- 牛尾裕子: 地区活動演習の学びを評価するルーブリックのモデレーションプロセスが参加教員にもたらす意味, 第 20 回日本地域看護学会学術集会, 2017.

[図書](計 1 件)

- 牛尾裕子・佐藤紀子・田村須賀子編集, 牛尾裕子・宮芝智子・塩見美抄・嶋澤順子・田村須賀子・松下光子・飯野理恵・安田貴恵子・山崎洋子・大澤真奈美執筆: ワークブック地域/公衆衛生看護活動事例演習, クオリティケア, pp121, 2019.

[産業財産権]

- 出願状況(計 0 件)
- 取得状況(計 0 件)

[その他]

- ワークショップ: 地区活動演習のパフォーマンス評価モデレーションワークショップ - 教員自身の教授・学習観そして地区活動観の問い直し -, 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2019.

ワークショップ：学士課程において保健師の地区活動をどのように教授するか - 学内演習における実践事例の用い方と学びのパフォーマンス評価 - ,日本地域看護学会第 21 回学術集会, 2018 .

ワークショップ：地域 / 公衆衛生看護演習プログラムデザインを考えるワークショップ , 7 月(大阪)11 月(東京), 2018 .

ワークショップ：学士課程において保健師の地区活動をどのように教授するか - 学内演習における実践事例の用い方と学びのパフォーマンス評価 - ,日本地域看護学会第 21 回学術集会, 2018.

ワークショップ：公衆衛生看護の教育法「地区活動」を映像化して伝える, 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2017.

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：嶋澤 順子

ローマ字氏名：SHIMASAWA junko

所属研究機関名：東京慈恵会医科大学

部局名：医学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 00331348

研究分担者氏名：田村 須賀子

ローマ字氏名：TAMURA sugako

所属研究機関名：富山大学

部局名：大学院医学薬学研究部(医学)

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 50262514

研究分担者氏名：塩見 美抄

ローマ字氏名：SHIOMI misa

所属研究機関名：兵庫県立大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号 (8 桁): 10362766

(2)研究協力者

研究協力者氏名：宮芝 智子

ローマ字氏名：MIYASHIBA tomoko

研究協力者氏名：松下 光子

ローマ字氏名：MATSUSHITA mitsuko

研究協力者氏名：飯野 理恵

ローマ字氏名：IINO rie

研究協力者氏名：安田 貴恵子

ローマ字氏名：YASUDA kiego

研究協力者氏名：山崎 洋子

ローマ字氏名：YAMAZAKI yoko

研究協力者氏名：小巻 京子

ローマ字氏名：KOMAKI kyoko

研究協力者氏名：竹村 和子

ローマ字氏名：TAKEMURA kazuko

研究協力者氏名：山本 大祐

ローマ字氏名：YAMAMOTO daisuke

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。